

低線量被ばくによる健康被害

と き 6月17日(土) 午後1時半～4時

入場無料／事前申込不要／受付開始:午後1時(180名で受付終了します)

ところ せんだいメディアテーク 7F

駐車場有り 仙台市青葉区春日町 2-1 022-713-3171



講師 さきやまひさこ 崎山比早子先生

1965年千葉大学医学部卒、74年同大大学院医学研究科修了。マサチューセッツ工科大学研究員、放射線医学総合研究所主任研究官を経て、99年から高木学校のメンバーとなる。元国会東京電力福島原子力発電所事故調査委員会委員。著書に『母と子のための被ばく知識—原発事故から食品汚染まで』(新水社)、『レントゲン、CT検査、医療被ばくのリスク』(共著、ちくま文庫)など。

宮城県の村井知事は、8000 ベクレル/kg以下の放射能汚染廃棄物を焼却・すきこみ・堆肥化处理しようとしています。処理しても放射能は消えることはなく、環境に拡散するばかりです。現在宮城県には月間1ベクレル/m²の放射性セシウムが降り注いでいますが、放射能汚染廃棄物の上記処理方法によって、放射性セシウムの拡散量はますます増え、低線量被ばくの危険性が高まります。この問題を考えるために、放射線医学の専門家であり、国会事故調の委員も務められた崎山比早子先生を仙台にお招きし、「低線量被ばくによる健康被害」と題して、学習講演会を開催することにしました。崎山先生のお話から学び、共に考えましょう。

主催 NPOきらきら発電・市民共同発電所

主催 NPOきらきら発電・市民共同発電所

日本キリスト教団東北教区放射能問題支援対策室いずみ

後援 放射能汚染廃棄物「一斉焼却」に反対する宮城県民連絡会

《連絡先》 仙台市泉区北中山 3 丁目 17-12、きらきら発電、電話 022-379-3777(FAX 兼用)